airiti Library

本文章已註冊DOI數位物件識別碼

日本電視劇的影像構造—基於應用於日本語教育之上的教育資源研究

The Image Composition of Television Plays: For the Educational Resource Research in Japanese Language Education

doi:10.29714/TKJJ.201112.0006

淡江日本論叢, (24), 2011

作者/Author： 落合由治(Yuji Ochiai)

頁數/Page： 113-131

出版日期/Publication Date：2011/12

引用本篇文獻時，請提供DOI資訊，並透過DOI永久網址取得最正確的書目資訊。

To cite this Article, please include the DOI name in your reference data.

請使用本篇文獻DOI永久網址進行連結:

To link to this Article:

http://dx.doi.org/10.29714/TKJJ.201112.0006

DOI Enhanced

DOI是數位物件識別碼（Digital Object Identifier, DOI）的簡稱，
是這篇文章在網路上的唯一識別碼，
用於永久連結及引用該篇文章。

若想得知更多DOI使用資訊，

請參考 http://doi.airiti.com

For more information,

Please see: http://doi.airiti.com

請往下捲動至下一頁，開始閱讀本篇文獻

PLEASE SCROLL DOWN FOR ARTICLE

最完整的學術整合查詢平台—華藝線上圖書館 ● http://www.airitilibrary.com ● Find more academic articles on Airiti Library

airiti

日本電視劇的影像構造

—基於應用於日本語教育之上的教育資源研究—

落合由治

淡江大學日文系 教授

摘要

本論文以電視劇《派遣之品性》為範本，試圖從電視劇影像中來釐清文本結構的特質。藉以提供使用電視劇當教材使用時的一些建言。考察結果顯示如下：

首先須注意電視劇的影像，其實是非連續性一事。電視劇是以固定的間隔時間，分隔出一幕一幕的影像，之後再串連一幕一幕的影像成為一齣有故事情節的電視劇。觀眾透過台詞的語言組合，而賦予影像意義，進而組合成一齣電視劇來觀賞。

繼之須注意台詞的語言組合串連成連續的詞篇，帶領進入電視劇的情境當中的效益一事。電視劇中使用了社會層面、男女分業概念、經濟層面、文化層面等各式各樣的符碼。觀眾在觀賞電視劇的同時，無意識之間從電視劇中接收了各各層面的訊息，進而身入其境地溶入電視劇的情境當中。

當將電視劇當作了解日本社會的活教材，使用於日本語教育之的話，有必要事先明白上述的基本文本架構以及特性。才能更加倍發揮出教材使用的價值。

關鍵字：電視劇　影像　文本　語言　符碼

airiti

The image composition of television plays: **For the educational resource research in Japanese language education**

Ochiai Yuji
Professor, Tamkang University, Taiwan

Abstract

This research has caught a text character for "Haken no hinkaku" as sample data from the image side of the drama. As a result, the following points have become clear.

First, when it sees from an image side, the drama is making the scene as a scene which is meaningful combining many shots which are able to be divided in short time. And a drama constitutes the scene, as meaningful in deployment of a story, and it is making the sequence. The televiewer has received the drama as a continuous image, giving a meaning to an image according to the linguistic contents of words.

Moreover, the sign of various kinds of social, gender, economical, and cultural levels is used for the drama. The televiewer is experiencing the actual feeling of a drama, receiving the sign unconsciously halfway in a story.

When a drama is used by Japanese language education, after understanding such fundamental text character in TV drama, it is necessary to use it.

Keywords: Television play, Image, Text, Language, Sign

airiti

テレビドラマの映像構成
―日本語教育における教育リソース研究のために―

落合由治
淡江大学日本語文学科教授

要旨

本研究では、『ハケンの品格』をサンプル資料にドラマの映像面からテクスト的性格を捉える試みを行ってみた。その結果、以下の点が明らかになった。

まず、映像面から見ると、ドラマは短い時間で区切れた多くのショットを組み合わせて意味のある場面としてのシーンを作り、そのシーンをストーリーの展開の中で意味のあるように構成してシークエンスを作っている。視聴者は、セリフという言語的内容によって映像に意味を与えながら、ドラマを連続した映像として受容している。

また、ドラマには、社会的、ジェンダー的、経済的、文化的な各種のレベルの記号が使われており、視聴者はそれをストーリーの中で半ば無意識的に受容しながら、ドラマの現実感を体験している。

日本語教育でドラマを使用する場合は、こうした基本的なテクスト的性格を理解した上で、使用する必要がある。

キーワード：テレビドラマ　映像　テクスト　言語　記号

airiti

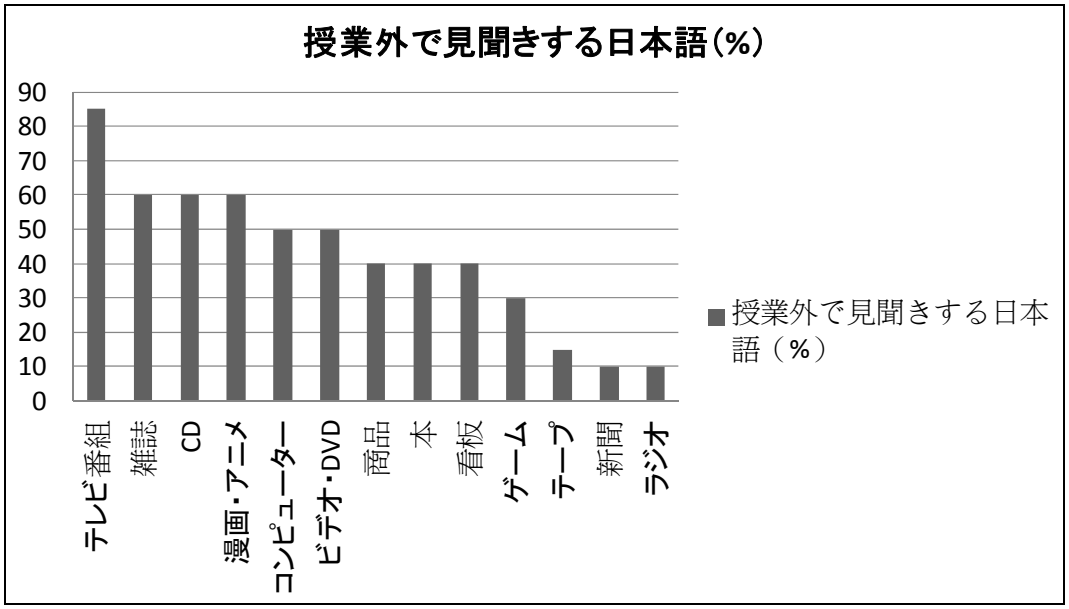
テレビドラマの映像構成
―日本語教育における教育リソース研究のために―

落合由治
淡江大学日本語文学科教授

１．はじめに

グローバル化の進展で台湾での日本語教育に使える教育リソースは多様化している。独立行政法人国立国語研究所（2006）によれば、その中でも特に、授業外で見聞きする日本語のリソースは商業メディアが提供している視聴覚メディアに大きくシフトし､テレビ、雑誌、CD、漫画・アニメ、コンピューター、ビデオ・DVD が 80%～50%を占めるようになっている[1]。

グラフ１　授業外で見聞きする日本語リソース



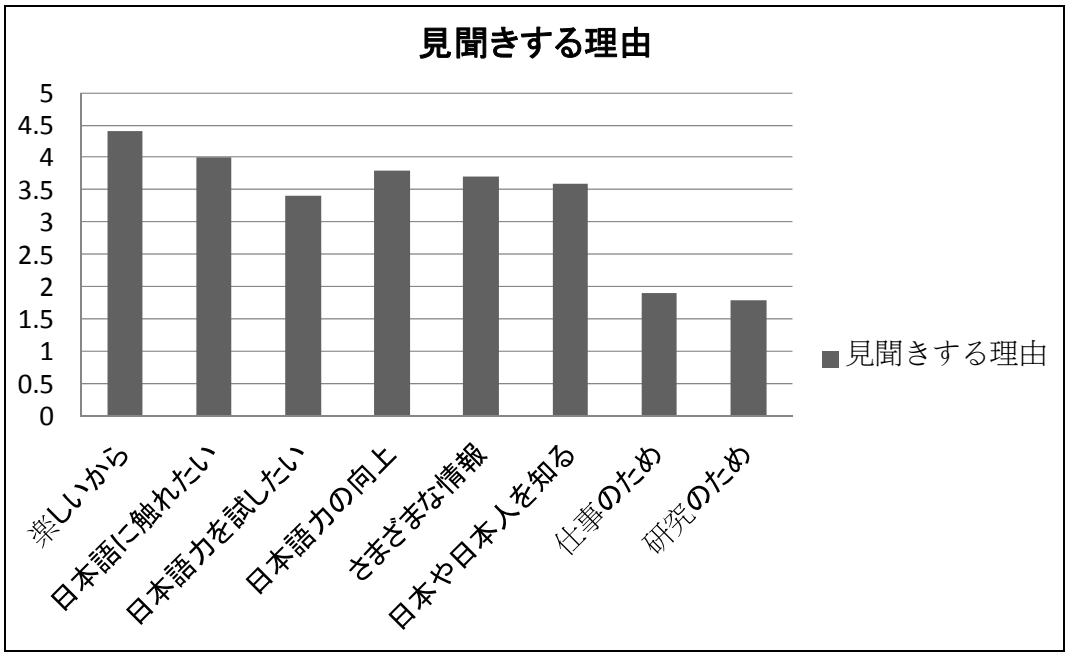
こうした傾向の中で、以下のグラフ２のように、授業外で日本語に触れる動機は、日本語力向上や情報摂取に関する動機よりも、「楽しい」という動機が重要度を増しており、歌、漫画・アニメと並ん

[1] 独立行政法人国立国語研究所（2006）『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究』P38

airiti

で、テレビ番組の主要部分を占める日本のドラマは台湾の学習者が好む日本語リソースの代表と考えられる[2]。ドラマは日本語教育の現場でも教材として活用されているリソースでもある[3]。

グラフ 2　学校外で日本語を見聞きする理由



独立行政法人国立国語研究所（2006）の調査では、こうした学校外で見聞きするリソースへの接触は日本語と日本への興味関心から自発的に行われており、見聞きする頻度は、高等教育の場合、毎日が 40%、週 2、3 回が 35%を占め、見聞きするリソースを自分で所有している者は 70%を超えている[4]。こうした調査結果から見ると、今後の台湾の日本語教育では学校外で見聞きするリソースと学校内の教育で使われるリソースとを接合していく必要が、学習者の学習動機を高める面でも重要であると考えられる。

しかし、現在までのところ教育に利用する際に大切な、テレビド

[2] 独立行政法人国立国語研究所（2006）P38 では、テレビ番組が 80%を占めている。
[3] 姚瑶(2009)「日本語学科におけるテレビドラマ教材の使用に関する一考察―中国と韓国を比較して―」『比較社会文化研究』26 等を参照。
[4] 独立行政法人国立国語研究所（2006）P39-40 参照。

airiti

ラマ等のメディアが制作している言語的非言語的なテクスト的特徴については、今まで十分に解明されてきたとは言えない。メディア・リテラシーの観点から、鈴木みどり編（2004）はメディア・テクストの特性を以下のように整理している[5]。

メディアはすべて構成されている
メディアは「現実」を構成する
オーディエンスがメディアを解釈して意味をつくりだす
メディアは商業的社会的政治的意味を持つ
メディアは考え方、価値観を教えている
メディアは独自の様式を持つ

日本語教育の生教材として利用する視点から見ると、この中で大切な点は、構成された表現としてのメディアの様々な意味は、メディア独自の伝達様式によって表現されているという点である。従って、メディア独自の伝達様式の規則性を明らかにすることで、メディアの伝える様々な意味も理解できるようになる可能性が開かれる。こうした規則的な表現様式を持つテクストとしてメディアの表現を見る観点からすると、従来、ドラマの日本語表現を扱った談話研究としては泉子・K・メイナード（2001）等があり[6]、またドラマの内容についてはメディア研究、社会言語学、ジェンダー論などの観点からも研究が行われてきている[7]が、言語と非言語双方からドラマの構成、内容、表現を扱う研究の方向や方法が確立されているとは言

[5] 鈴木みどり編（2004）『新版メディア・リテラシー入門編』リベルタ出版 P18-21 参照。
[6] 泉子・K・メイナード（2001）『恋するふたりの「感情ことば」―ドラマ表現の分析と日本語論』くろしお出版、および泉子.K.メイナード（1997）『談話分析の可能性―理論・方法・日本語の表現性』くろしお出版、泉子.K.メイナード（2004）『談話言語学―日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究』くろしお出版、泉子・K・メイナード（2008）『マルチジャンル談話論―間ジャンル性と意味の創造』くろしお出版を参照。
[7] 社会言語学、メディア研究では岩男寿美子（2000）『テレビドラマのメッセージ ―社会心理学的分析』勁草書房、ジェンダー論などの観点からの言語内容の分析では日本ジェンダー学会編（2006）『日本語とジェンダー』ひつじ書房などを参照。

airiti

いがたい。

そこで、本研究では台湾の日本語学習者が利用している代表的な日本語のリソースのひとつと考えられる日本のテレビドラマを取り上げ、教材として利用する際の基礎的視点となるようなドラマのテクスト的性格について言語的内容と非言語的内容の双方から考察の手順作りを試み、日本語教育の生教材として活用する場合の注意点を示したい。

2.『ハケンの品格』のテクスト的性格

以下では、ドラマのサンプルとして『ハケンの品格』第1話冒頭部分を取り上げ、その言語的内容と非言語的内容について、どのようなテクスト的性格が見られるかを列挙し、その中から注目される特徴について述べる[8]。『ハケンの品格』をサンプルとした理由は、①現代の日本社会で問題になる派遣社員をテーマにし、経済的社会的記号性に富んでいる、②日本では平均20%を越える視聴率で、台湾でも緯來日本台で放映された一定の評価と話題性のある作品である、③現代の日本社会を理解し、会社文化を知るのによい教材になるという点からである。

2.1『ハケンの品格』冒頭のシーン構成

今回はメディア・リテラシー研究で使われているドラマの分析法を参考にして、まず非言語的内容の代表といえる映像の流れを中心にドラマのテクスト構成を捉えてみる。鈴木みどり編（2004）によれば映像の最小単位は「ショット」で、ショットが組み合わされて

[8] Wikipediaによれば『ハケンの品格』は2007年1月10日から3月14日まで日本テレビ系列で全10話が放映された、篠原涼子主演の連続テレビドラマで、平均視聴率は20%。2000年代の日本社会で問題になっていた派遣社員を取り上げたドラマで、社会的反響も大きかった。(2011年12月10日閲覧) http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%82%B1%E3%83%B3%E3%81%AE%E5%93%81%E6%A0%BC。台湾でも『派遣女王』として2007年8月27日-10月20日、また2008年7月14日から2回放映された。本研究では、構成が明確で社会的記号を考察する点でも有効な資料としてサンプルに選んだ。

airiti

「シーン」ができ、シーンを組み合わせてストーリーとして意味が生じる「シークエンス」を作っている[9]。今回は言語的内容と関係のあるストーリーを構成する「シーン」を単位にして、シーンの中にはどのような非言語的内容と言語的内容が見られるかを整理する。まず冒頭のシーンとショット数を表１に示した。

表１『ハケンの品格』第１話冒頭のシーンとショット数

放映時間（秒数）	シーン	ショット数	１ショット平均時間
00:00-00:50（0:50）	１東京の光景と「派遣」について説明するナレーション	25	0:50/25＝2△
00:51-01:57（1:06）	２スペイン・アンダルシア地方で過ごす大前春子	17	1:06/17＝3.9
01:58-03:20（1:22）	３東京で求職活動する森美雪	16	1:22/16＝5.1□
03:37-04:27（0:50）	４Ｓ＆Ｆ社の仕事始め式	20	0:50/20＝2.5△
04:28-05:48（1:20）	５Ｓ＆Ｆ社営業部の辞令交付	26	1:20/26＝3.1
05:49-06:45（0:56）	６里中の帰宅中のバスでの出来事	18	0:56/18＝3.1
06:46-07:59（1:13）	７ハケンライフでの森美雪の求職	14	1:13/14＝5.2□
08:00-09:52（1:52）	８Ｓ＆Ｆ社営業部での森美雪の面接	34	1:52/34＝3.3
09:53-11:08（1:15）	９Ｓ＆Ｆ社への大前春子の出社	28	1:15/28＝2.7△
11:09-11:33（0:24）	１０オープニング	5	0:24/5＝2.7△
合計 11:33	平均 11:33/10＝1:09	平均 203/10＝20.3	平均 11:33/203＝3.4

注１：放映時間は秒単位の概数、ショットは画面から次の画面への切り替えを基準に分けた。
注２：△＝ショットが短いシーン／□＝ショットが長いターン

以上から、11:33 の放映時間の中は 10 シーンに分けられ、各シーンの平均放映時間は 1:09 である。シーン全体は全部で 203 ショットからなり、各シーンの平均ショット数は 20.3 ショットとなり、各ショットの平均放映時間は 3.4 秒である。視聴者はドラマがずっと連続した映像で構成されているように錯覚してしまうが、実は映像の

[9] 鈴木みどり編（2004）『新版メディア・リテラシー入門編』リベルタ出版 P136

airiti

構成を中心に見た場合、ドラマは以上のように秒単位またはそれ以下の時間で区切られた互いに断続したショットを合成して作られたものである。

図１　ドラマの映像構成

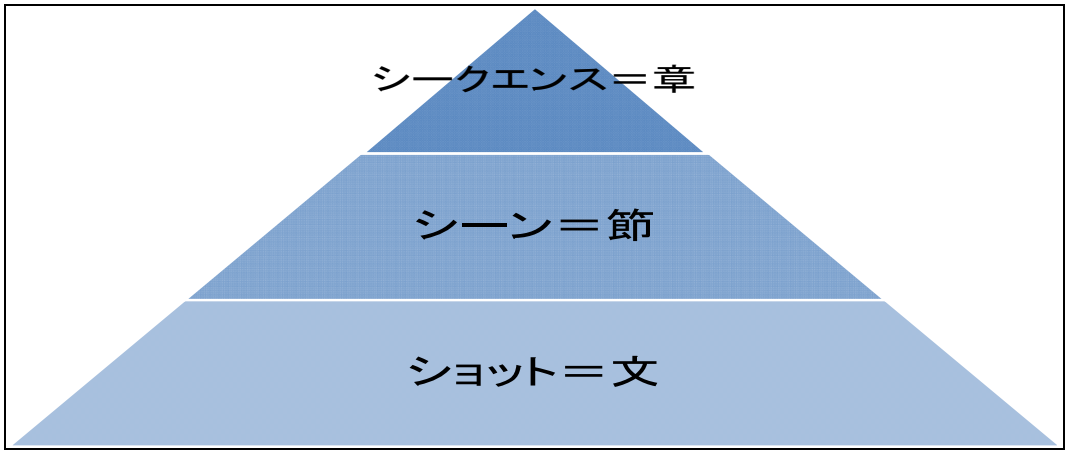


図１のように文字テクストの比喩で言えば、ショットはその放映時間の長さに応じて映像での「文」または「段落」に当たり、シーンは映像での「節」、シーンのまとまりであるシークエンスは「章」と考えられる。映像の最小単位であるショット（「文」）を基礎として、各ショットを統括して場面としての意味を与えるのがシーン（「節」）であり、ひとつひとつが独立した場面である各シーンに、意味を持つストーリーとしての有機的連関を与えるのがシークエンス（「章」）と言えよう。

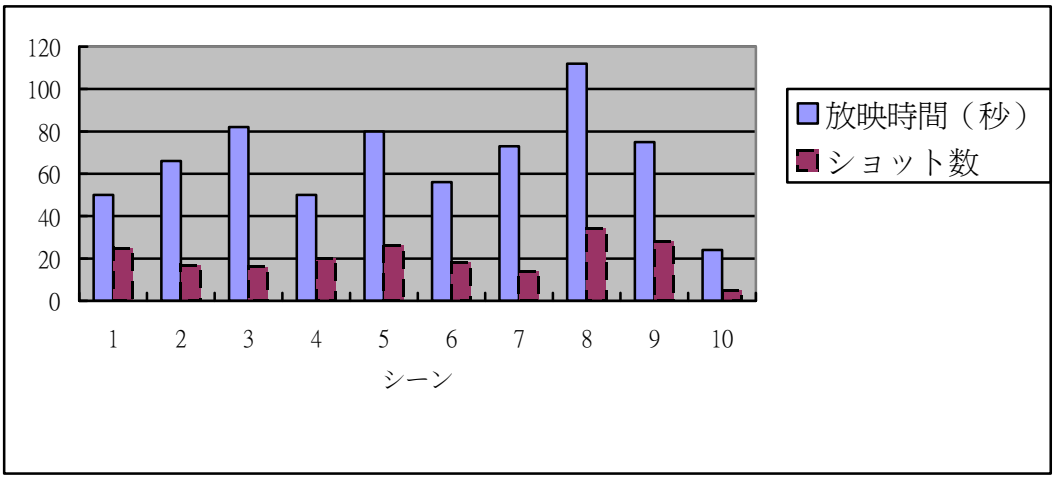
ドラマシナリオの書き方では全体は「起承転結」という構成で書かれる場合が多いと言われる[10]。今回はその「起」にあたるシークエンス（章）を取り上げていると考えられる。内部のシーンは表１から分かるように、平均して 1:09 のシーンからなり、シーンの長さの相互関係をグラフ１に示した。毎回流される 10「オープニング」を除いて[11]、再度平均の放映時間を出して見ると、平均 74.6 秒

[10] 新井一（1985）『シナリオの基礎技術　新版』ダヴィッド社参照。
[11] 日本の民間放送のドラマでは一般的にオープニングに続いて CM が入る場合が多く、この場合も平均よりかなり短い 10 の放映時間は CM の放映時間に合わ

airiti

（01:14.6）となるが、以上のグラフから分かるように、各シーンは頻繁に長短を入れ替えて構成され、決して均質とは言えないことが分かる。

グラフ１『ハケンの品格』第１話冒頭の各シーン長とショット数



こうした長短のある各シーンは、それぞれシークエンスの中での役割が決まっており、それによって長短が決定されていると考えられる。

2.2『ハケンの品格』冒頭のシーンの役割

次に、長短のあるシーンがストーリー展開で果たす役割に注目して、ストーリーとどのような関係があるか考えてみたい。

表２『ハケンの品格』第１話冒頭の各シーンと内容・役割

放映時間	シーン	内容・ストーリー	役割
00:00-00:50（0:50）	１東京の光景と「派遣」について説明するナレーション	1990 年以降の派遣制度の紹介と現状	ドラマ全体の背景紹介（テーマの提示）
00:51-01:57（1:06）	２スペイン・アンダルシア地方で過ごす大前春子	主人公・大前春子が休暇先のスペインでジプシー達と過ごす中、新年からの派遣の仕事の依頼メールを受けて、キャンプを去る	主人公の登場と生活・性格の紹介

せて作られていると考えられる。

airiti

01:58-03:20 (1:22)	３東京で求職活動する森美雪	年末に就職が決まらなかった副主人公森美雪がハケンライフを尋ねて派遣の仕事に登録する	①副主人公の登場と生活・性格の紹介 ②ドラマのストーリーの新年から始まる時の起動
03:37-04:27 (0:50)	４Ｓ＆Ｆ社の仕事始め式	話しの舞台のＳ＆Ｆ社の仕事始めで副主人公の東海林、里中が桐島部長と餅つきをする	①ドラマの舞台の紹介 ②副主人公達の登場と生活・性格の紹介
04:28-05:48 (1:20)	５Ｓ＆Ｆ社営業部の辞令交付	東海林、里中が桐島部長から新しい仕事の辞令を受ける	①副主人公達の仕事・性格の紹介 ②ドラマの直接の舞台の設定
05:49-06:45 (0:56)	６里中の帰宅中のバスでの出来事	里中が帰宅途中のバスの中で座っていたところ知らない女性（大前春子）にネクタイを掴まれて立たされ、お年寄りに席を譲るように迫られる。お年寄りが降りたので女性は席にそのまま座ってしまった。	①主人公と副主人公の遭遇 ②その後のドラマ展開の予告
06:46-07:59 (1:13)	７ハケンライフでの森美雪の求職	仕事が来ない森美雪がハケンライフの一ツ木に仕事がほしいと懇願し、キャンセルの出た仕事を立ち聞きして、Ｓ＆Ｆ社の面談を受けることになった。	副主人公と副主人公の相互の出会いのきっかけ（面談を受ける）
08:00-09:52 (1:52)	８Ｓ＆Ｆ社営業部での森美雪の面接	Ｓ＆Ｆ社で桐島、東海林、里中が森、一ツ木と面談をして、大前春子とセットでの派遣の仕事が決まる。	①副主人公と副主人公の相互の出会い ②ドラマの人物関係設定 ③主人公登場の予告
09:53-11:08 (1:15)	９Ｓ＆Ｆ社への大前春子の出社	大前春子がＳ＆Ｆ社へ出社する途中、森が彼女を目撃する。	①主人公と副主人公の遭遇 ②ナレーションでのドラマのテーマの提示
11:09-11:33 (0:24)	１０オープニング		

ストーリーの展開から見ると表２のように、第１話のため、まずシーン１ではドラマの背景である派遣制度が映像とナレーションと説明されている。続いてシーン２で主人公・大前春子が紹介され、

airiti

シーン３では副主人公の森美雪の紹介が行われている。主要な人物を紹介するのは、今後のストーリーの展開上、大きな意味を持っていると考えられる。さらに、シーン４、５では今回のドラマの舞台になるＳ＆Ｆ社に関連した舞台と人物の紹介が行われている。ここまでで登場人物とその空間が以上で提示され、ドラマの主体とストーリーが展開する時空の視聴者への紹介がなされている。このうち比較的時間の長いシーン３、５のうち、シーン３は年末の夜、仕事がない森美雪が母からの電話で意を決し、翌年派遣会社のハケンライフを尋ね、派遣の仕事に登録するまでの経過を描いており、ストーリーから見るとドラマはここからドラマのストーリー上での時の流れが始まっている。またシーン５は新年の仕事始めという時を提示してドラマの直接の舞台になるＳ＆Ｆ社の内部の人間関係とマーケティング課設立の顛末が辞令交付の形で描かれ、視聴者へのドラマのストーリーの予告になっていると思われる。長いシーンには、そうした重要なストーリー上の構造が示されていると言えよう。

後半のシーン６からは、今度は登場した各主要人物相互の出会いが時間経過に従って設定されている。シーン６ではバスの中でＳ＆Ｆ社の主要人物・里中が大前春子と知らないで彼女と出会っているが、それはオープニングに続く「承」のシークエンスでのＳ＆Ｆ社の面談での二人の出逢いの伏線、あるいはその後のストーリー展開の予告（仕事で里中をリードする大前と里中の片思い）になっている。シーン７、８では人材派遣会社に登録した森美雪の面談が決まり、Ｓ＆Ｆ社の面談を受けるストーリー展開の中で、派遣の仕事内容の紹介とともにドラマの主要人物である森、一ツ木、桐島、東海林、里中の性格、仕事ぶり、能力と組織での力関係などが示され、ドラマの舞台となるＳ＆Ｆ社営業部とマーケティング課で展開されるその後のストーリーの人物関係、組織の背景が設定されている。オープニング前の９は、以上１～８の紹介的設定シーンの最後のシーンとして、主人公大前春子と副主人公森美雪が街頭で遭遇し、ドラマでの特別な人物として大前春子が登場する。そして森の独白の

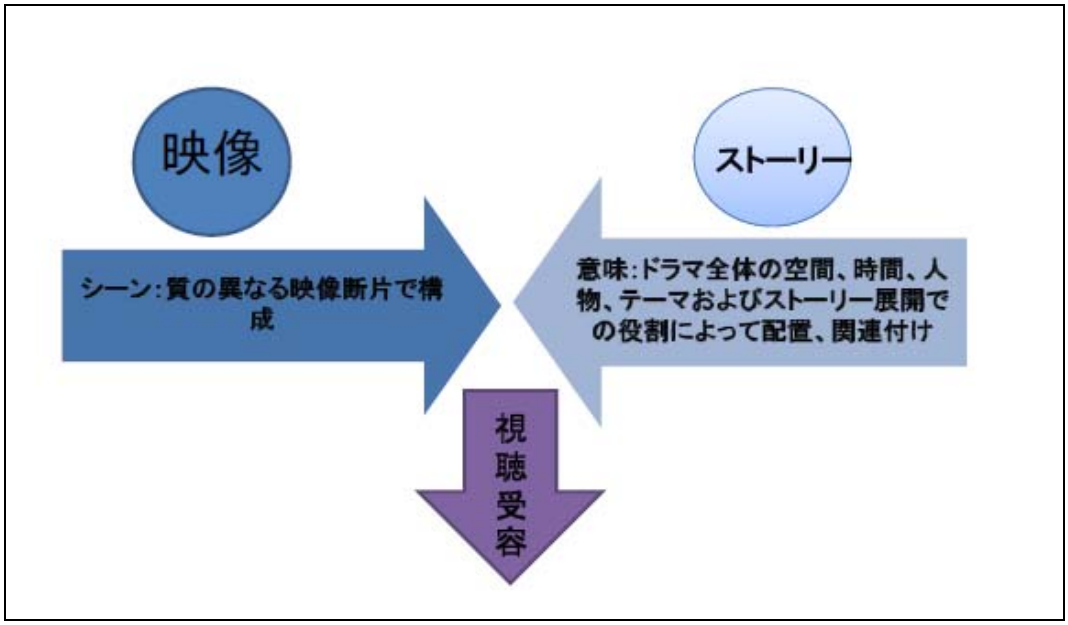
airiti

形で、その後のドラマのテーマが「大前春子さんは私の人生にものすごいインパクトを与えた。そしてとても大切なことを私に教えてくれた。働くことは生きることだと」と提示される。

以上、ドラマのシーンをストーリー展開と関連させてみると、互いに異なる映像断片であるショットで構成されたシーンは、ドラマ全体の空間、時間、人物、テーマおよびストーリー展開での役割によって配置され、文字テクストがそうであるように相互に関連付けられて、それぞれの意味を持って配置されていることが分かる。ここにドラマというテクストの特徴が見られる。

以下の図 2 のように、映像としてのシーンは、言語的なせりふによって意味を持つストーリーとして読み取られ、視聴者に意味を持つ映像の流れとして構成されたテクストとして受容されていると言える。

図 2　映像と言語的ストーリーの相互作用



2.3『ハケンの品格』冒頭のシーンでの言語の役割

さらに、映像と言語との関係を考えてみるために、シーンの中でのショットと言語、音声の関係について見る。

airiti

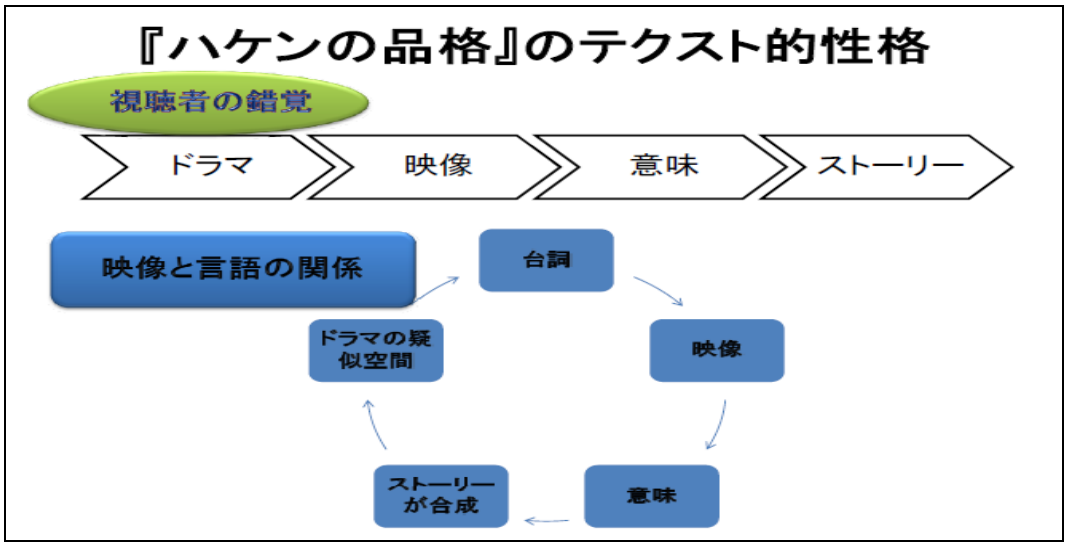
表３『ハケンの品格』第１話冒頭シーン３のショットとセリフ・音声

放映時間	ショット	セリフ	音声・音響・音楽
01:58-02:01	3-1 粉雪の中、橋の上を歩く森美雪の後ろ姿		携帯電話の着信音
02:02-02:41	3-2 電話をとる森美雪のバス・ショット／「森美雪（23）アルバイト・年収 81 万円」の字幕フェードイン（後ろから前へフォロー）	森:もしもしお母さん？／お正月さあ、帰れなくてごめんね。／そんなに心配しなくていいってば。もうちょっと東京で頑張ってみるからさあ。／だって会社いっぱいあるがんね。絶対どっかに入ってみせるからさあ。／大丈夫、大丈夫。もう切るかんね、ほいじゃあね。	短調のバックミュージック（3-2→3-16）除夜の鐘
02:42-02:44	3-3 電話を切って空を見る森美雪のズームイン	森：はあー（溜め息）。	
02:45	3-4 東京の銀座・三越のバス・ショット（カット）		
02:46	3-5 ハケンライフの社章		
02:47-02:48	3-6 ハケンライフの社内を歩く一ツ木慎也の後ろ姿	一ツ木：（出ていく派遣社員たちに）お疲れさまでーす。	
02:50-02:52	3-7 ハケンライフの個人情報登録シートのアップ		
02:53	3-8 シートを書く森美雪のバスショット		
02:54-02:57	3-9 シートを書く手元のアップ	森：職歴？	
02:58	3-10 顔を上げた森美雪の顔のアップ	森：ない	
02:59-03:01	3-11 森の様子を見る一ツ木のバス・ショット	一ツ木:派遣のお仕事は初めてですか？	
03:02-03:04	3-12 一ツ木に答える森美雪のアップ	森：あ、はい・・・。 一ツ木：そういう方大歓迎です。	
03:05-03:19	3-13 一ツ木が向かいの席に座るズーム･アウト(面談コーナーのハイアングルのロング・ショット)	一ツ木:派遣というのはうちのような派遣会社に登録していろんな企業に出向いて働くスタッフのことです。お給料は時給で我々派遣会社が支払います。 森：はあ。↓ 一ツ木:まずは登録していただくために	
03:20-03:23	3-14 質問に答える森美雪の顔のアップ	一般常識のテストとパソコンのスキルをチェックしましょう 森：あ、あの・・・。	
03:24-03:31	3-15 説明する一ツ木慎也の顔のアップ／「一ツ木慎也（30）ハケンライフ社員年収 402 万」の字幕フェードイン	一ツ木：大丈夫ですよ。ほんと簡単なテストですから。申し遅れました私マネージャーの一ツ木と申します。（名刺を渡して）分からないことがあったら	

airiti

		何でも聞いてくださいね。	
03:32-03:36	3-16 必死に訴える森美雪の顔のアップ	森：私高望みはしません。とにかく早く仕事に就きたいんです。	

図 3　ドラマにおける映像と言語の関係



シーン 3 を例にドラマのセリフから分かるテクスト的特徴を考えてみると、大きく 3 つの点を挙げることができる。一つはショット 3-2 の家族への電話から森美雪の現在の状況（大学卒業後、就職活動をしたが未だに仕事が見つからない）、家族と出身（地方に家族がいて、本人は東京で仕事を見つけたい）[12]などが推測できるように、人物や状況の設定がされている点である。もう一つは、ショット 3-11 から 3-14 での派遣会社での二人のやり取りから分かるように、人物間の関係設定と性格付けである。積極的に話す一ツ木に対して森の「はあ」「あ、あの・・・」のようなはっきりしない応答から、受け身な森の性格と二人の力関係が推測できる。そして、最後に「除夜の鐘」のような音声は時や季節を提示し、また短調のバックミュージックはストーリーのやや緊張した雰囲気の場を作っていることである。以上のように、シーン内でのショットと言語的内容を対照させて見てみると、セリフなしにショットだけを見ても視覚

[12] 方言の「いっぱいあるがんね」から地方の出身らしいことが分かる。

airiti

情報以外の情報は得られず、ストーリーの詳細は掴めない。以上こうして見ると、全 16 ショットからなるシーンの各映像断片は言語的セリフによって初めて意味的に関連づけられ、ストーリーとしての流れと意味を与えられている。この点から見れば、図 3 のように、ドラマは映像が直接、意味を伝えていると視聴者に錯覚され、映像があるのでストーリーがはっきりしているかのように受容されているが、実はドラマは、基本的に言語的内容および音声が映像に具体的意味を与えて、ストーリー構造を決めている言語的テクストなのである。

３.『ハケンの品格』に見られる社会文化記号

記号を、象徴作用を持つ言語的非言語的表現と考えると、『ハケンの品格』は今回見た「序」のシークエンスから、以下のような、さまざまなレベルの記号を含んでいることが分かる。

①社会的記号＝「派遣労働」「M型社会」「社会的不平等」・・・

②ジェンダー的記号＝正社員男性対派遣社員女性

③経済的記号＝プロダクトプレイスメント、衣装等の小道具

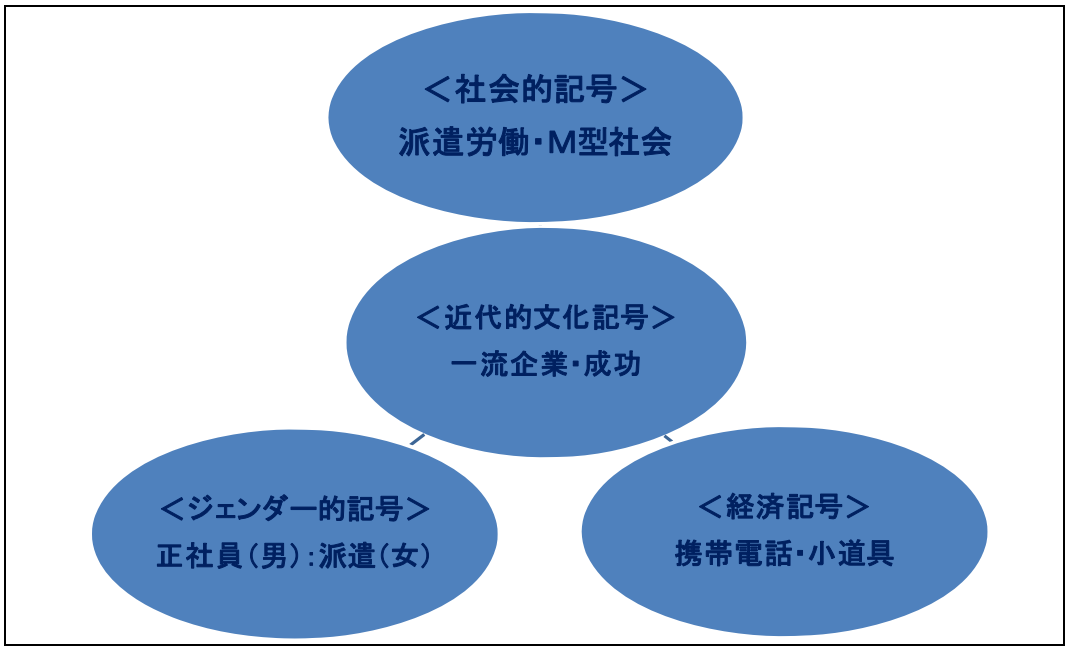
④近代的記号＝近代的オフィスビル＝一流企業＝安定・成功

まず、『ハケンの品格』は派遣労働について紹介したシーン１と、新たに派遣社員となった森美雪のモノローグによるシーン９で、かなり明確に派遣労働に対する肯定的テーマを提示している。その意味では、「派遣労働」をもたらした「M型社会」という 2000 年代の社会的記号にドラマ全体が位置づけられていると考えられ、ドラマの世界は次第に広がりつつある日本の社会的不平等を示す記号となっている。同時に、ドラマでは正社員の男性対派遣社員の女性という人間関係の構図が使われており、その関係から男女の性役割に関する、男性が正規の仕事に就くのに対して、女性は補助的仕事に甘んじるというジェンダー的記号も提示されている。さらに、ドラマで重要な小道具となっている携帯電話は視聴者の調査では、ドラマ

airiti

のスポンサーになっていたNTTdocomoの「Foma」で[13]ドラマの小道具を宣伝手段にする手法が用いられていると言える[14]。こうした各種の記号が記号として成り立つ基盤になっているのは、ドラマの舞台であるS&F社の高層ビルが象徴しているような、一流企業のイメージがもたらす安定・成功・ハイステータスという、近代日本社会の文化的記号と言えよう。これらは各種の映像と人物関係を通じて、ドラマのストーリーの背景として意図的に設定されており、図4のようにドラマに現実味を与えていると同時に、半ば無意識に視聴者に受容されている記号である。

図4　『ハケンの品格』の記号



ドラマのストーリー自体は、スーパー派遣社員大前春子という架空の設定を出すことで、職場の人間関係で仕事をしている日本的雇用の反定立として、高度の職業スキルを持つことで派遣社員としての存在を確立できるという、新しい職業観を提示していると思われ

[13] ブログ『人生きまぐれメモ』http://a2o.shiga-saku.net/e16101.html
[14] CMによらないでドラマでスポンサー商品を使わせるマーケティング手法はプロダクトプレイスメントと呼ばれる。

airiti

る。しかし、以上のような社会的ジェンダー的経済的文化的記号の理解なしに教授者がドラマを授業で用いると、制作者が意識的無意識的に視聴者に与えようとしている、記号として表現されているかなり明確な価値観を持った表現意図を無意識的に学習者に強制したり受容させてしまったりする場合がありえる[15]。日本語教育で、テレビドラマを使用する際には、ただ日本の現実を忠実に描いているとか、逆に、空想のストーリーに過ぎないと捉えるのではなく、そうした言語的非言語的テクストが、今回見てきたように非常に厳密に各要素が組み合わされ、規則的に構成されている点に注目して、ドラマの制作意図を読み解く必要があると言えよう。

４．おわりに

今回、『ハケンの品格』を資料にドラマの映像面からテクスト的性格を捉える試みを行ってみた。その結果からは日本語教育で生教材として利用する場合は以下の点に留意する必要があると言える。

1)小道具使用や舞台など映像は映像で社会文化記号をチェックする必要があり、同時に映像と関係させて言語的内容でストーリー、テーマおよび社会文化記号を検討する必要がある。

2)明確に意識して授業で使えば、ドラマに出る各種の社会文化記号は現在の日本を理解する手掛かりであり、また授業での考察、討論の対象にできる。

3)ドラマの会話はシーン単位で活用すれば、場面と話者の関連づけが明確になり、また対人関係での丁寧体対普通体のコードチェンジなどを理解できるよい会話のモデルになる。

---

[15] 製作予定だった『ハケンの品格 2』は派遣労働を批判する勢力の批難や 2009 年のリーマンショック後の企業の大量の「派遣切り」に対する社会的批判により製作中止になっている。『ハケンの品格』は派遣労働を肯定する価値観のドラマであり、その点で、現実社会で多くの派遣労働者が解雇される事態の中では、とうてい受容できない価値観を視聴者に強要することになり、社会的批判の対象となったと言えよう。Wikipedia「派遣切り」http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B4%BE%E9%81%A3%E5%88%87%E3%82%8A(2011 年 12 月 20 日閲覧)

airiti

4)ドラマはシーン単位で活用すれば日本人の人間関係と言語表現の関係あるいは依頼や断りなどの言語運用ストラテジーを理解するよいモデルになる。

今後は、同じくメディア素材である、テレビニュース、ドキュメンタリー等、一般に事実を伝えていると視聴者に受容されている番組についても、考察を行っていきたい。

注記

本論文は、2010 年 3 月 12 日に、銘伝大学応用日本語学科主催「應日語學系商務觀光日語課程教材與教法學術研討會」において「ドラマを読む―日本語教育における教育リソース研究のために」というテーマで発表した内容に、全面的に加筆訂正を加えたものである。

参考文献

岩男寿美子（2000)『テレビドラマのメッセージ ―社会心理学的分析』勁草書房

鈴木みどり編（2004)『新版メディア・リテラシー入門編』リベルタ出版

泉子・K・メイナード（2001)『恋するふたりの「感情ことば」―ドラマ表現の分析と日本語論』くろしお出版

泉子.K.メイナード（1997)『談話分析の可能性―理論・方法・日本語の表現性』くろしお出版

泉子.K.メイナード（2004)『談話言語学―日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究』くろしお出版

泉子・K・メイナード（2008)『マルチジャンル談話論―間ジャンル性と意味の創造』くろしお出版

独立行政法人国立国語研究所（2006)『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究』独立行政法人国立国語研究所

日本ジェンダー学会編（2006)『日本語とジェンダー』ひつじ書房

2011 年 10 月 30 日投稿受理　2011 年 12 月 9 日審査通過